

## 例 言

1. 本概報は、法隆寺における防災工事にともなう昭和57年度における発掘調査の概要をとりまとめたものである。
2. 防災工事およびこれにともなう発掘調査のため法隆寺防災工事委員会を設定し、太田博太郎・倉田文作・坪井清足・岸俊男・工藤圭章を委員に依嘱し、その後工藤圭章の文化庁転出にともない、岡田英男に依嘱した。昭和58年1月23日の倉田文作の急死にともない、濱田隆に依嘱した。発掘調査は奈良国立文化財研究所・奈良県立橿原考古学研究所・奈良県文化財保存事務所などが協同で実施した。
3. 本概報の作成にあたっては、編集小委員会を設け、高田良信、森郁夫、堀内啓男、菅谷文則がこれにあたり、本概報の構成を定めた。
4. 本概報に収録した昭和53年度から昭和55年度までの調査概要は、『奈良国立文化財研究所年報』1981、『奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査概報』昭和53・54・55年度、昭和55年度の調査概要は『奈良県遺跡調査概報（第二分冊）1980年度』に報告があり、それを要約した。昭和56年度調査については、『法隆寺発掘調査概報Ⅰ』を刊行した。
5. 本概報の作成は、法隆寺防災工事委員会および発掘調査小委員会の指導のもとに、調査参加者がこれにあたった。なお法隆寺防災工事委員で発掘調査小委員会の岡田英男には細部にわたって指導を蒙った。なお執筆分担は下記のとおり。Ⅰ—1 堀内啓男、Ⅰ—2・3 菅谷文則、Ⅱ—1 菅谷、Ⅱ—1A 山田圭子、Ⅱ—2 森郁夫、Ⅱ—3 中尾文子、Ⅲ—1 深澤芳樹、Ⅲ—2 西弘海、Ⅲ—3 杉山洋、Ⅲ—4 堀内啓男、Ⅳ—1 菅谷、Ⅳ—2 森、Ⅴ—1 岡田英男、Ⅴ—2 木全敬蔵、Ⅴ—3 高田良信、Ⅴ—4 森、Ⅴ—5 菅谷。
6. 遺構・遺物の写真は八幡扶桑・佃幹雄が担当し、藤田千賀枝が協力した。遺構の一部は発掘担当者が撮影した。編集は菅谷文則が担当し、石川千恵子、玉井尚子、中川弘美が協力した。
7. 昭和56年検出遺構図の縮図は主として山田圭子、中尾文子、福島輝一、宮本裕史、西尾法子が行なった。